

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1 対 1 対談 (御浜町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 9 月 8 日 (火) 15 時 15 分～16 時 15 分

2. 対談場所

道の駅パーク七里御浜 3 階 「ごちそうダイニング by 辻さん家」  
(御浜町大字阿田和 4926-5)

3. 対談市町名

御浜町 (御浜町長 大畑 寛)

4. 対談項目

- 1 道路網の整備について
- 2 防災の強化について
- 3 若者定住対策について
- 4 柑橘産業の振興について
- 5 熊野古道の復旧について
- 6 紀南病院における医師確保について
- 7 保健所の機能強化について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さま、こんにちは。また今日は御浜町長におかれましては、1 対 1 対談のお時間をいただきましてありがとうございます。まずはこの 9 月 4 日で紀伊半島大水害から 4 年を迎えたということで、御浜町におかれましてもお亡くなりになられた方がいらっしゃいました。改めて哀悼の意を表したいと思ひますし、この復旧に向けて地域を挙げてご尽力いただいたことを心から敬意を表したいと思ひますし、私たちも引き続き頑張っていきたいというふうに思ひます。それから、今日は明るい話題として選果場が竣工式を迎えたということで、私は公務の都合で参加できませんでしたが、石垣副知事が参加をさせていただいて、竣工式を迎えたことを大変喜ばしく思ひますし、お祝いを申し上げたいと思ひます。

そして今日、このピネに来させていただいて、辻さんのところが去年の年末ですか、経営参画していただいて、非常に明るくなった素晴らしい、未来を感じさせる、そんな雰囲気になったなというふうに思ひましたものですから、さ

らに今日はひとつ、議題にもありますけど、この地が御浜町の発信基地になっていくように、私たちもしっかり応援をしていきたいというふうに思う所があります。今日は議長をはじめ、多くの議会の先生方もお越しいただきましてありがとうございます。限られた時間ですけれども、有意義に過ごしていきたいと思えますし、また、台風 18 号が接近しております。ぜひ警戒を強めていただきますようによろしくお願ひしたいと思えます。本日はよろしくお願ひします。

## 御浜町長

こんにちは。御浜町長の大畑でございます。鈴木知事には御浜町の町政に對しまして、格別のご理解をいただきておりまして、数多くのご支援を賜っております。厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。ただ今知事の方からも紹介がありましたけれども、午前中、選果場の方、新しい選果機の導入をいたしました。今回の選果につきましては、腐敗果を選別できるセンサーということで大変これからの選別に期待をしておる所でございます。また、知事には大変ご無理をおかけしたわけでございますけれども、4 月からは県の職員であります中平弘氏を副町長に派遣をいただきまして誠にありがとうございます。中平副町長におかれましては大変精力的に町政に取り組んでいただきておりまして、大変頼もしく思っている限りでございます。改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、今年の 1 対 1 対談につきましては先ほど知事の方からも紹介がありましたように、このピネのごちそうダイニング by 辻さん家をお借りしてということでございます。パーク七里御浜につきましては、辻さんに精力的に改修をいただきまして大変きれいに、またレストランだけでなくトイレ・玄関・外壁等も一新していただきまして大変きれいに新しくなりました。大変感謝をしているところでございます。辻社長からは先般ミラノ博の方に知事と同行されるということをお聞きしておりまして、そういうこともありまして、今回の対談場所をごちそうダイニング by 辻さん家でお借りしたところでございます。私にとりましては 1 対 1 対談は初めてでございますので、どうかひとつよろしくお願ひいたします。

## (2) 対 談

### 1 道路網の整備について

## 御浜町長

まず項目 1 つ目の「道路網の整備について」でございますけれども、近畿自動車道紀勢線の建設促進につきましては、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

げます。おかげさまで現在、熊野市大泊まで前進がみられておりますけれども、引き続き、平成24年度から平成26年度まで3年間、「熊野尾鷲道路Ⅱ期」それから「新宮紀宝道路」そして「熊野道路」と3年連続で新規事業化をしていただいたところがございますけれども、このことにつきましては、深く敬意と感謝を申し上げたいと思います。そして残る区間、久生屋～紀宝町の神内までこの区間はまだ事業化に至っていないわけですがけれども本年4年目ということでどうかと思っておりましたけれども、残念ながら4年連続にはならなかったと。しかしながら、この区間につきましても早期の事業化に向けて一生懸命地元を挙げて取り組んでおりますので、引き続きご尽力いただきたいというように思います。

2点目は主要道路、これは県道御浜紀和線でございますけれども、阿田和から尾呂志を結ぶ県道でございますが、紀和町の湯ノ口温泉等も控えておましてそういったところへつなぐ道路、そしてまた、そして将来的に、近畿自動車道紀勢線が新規事業化された場合にインターアクセスの道路として重要な道路となるというように思っているところでございます。しかし、この道路につきましては、十数年にわたって整備の方をさせていただいておりますけれども、まだ一部狭いところ、あるいはカーブが多い箇所が残っております。箇所にしても2箇所残っているわけですがけれども、西原地区～金堀地区の間と、柿原地区～中立地区の間、この2箇所がまだ残っているわけですがけれども、現在はこのうち、西原地区～金堀地区の間につきましては、昨年度からまた改めて事業化をさせていただいて、現在御浜町において地籍調査等実施させていただいて協力をさせていただいているところでございます。そして先般なかなか現場が進まないことを含めまして、この柿原～中立間につきましても一部事業化をしていただけないかというところで、この間も一部事業化ということでお話を伺っているところでございます。全線早期に完成をさせていただきたいという思いがございますのでご協力をひとつよろしく願いいたします。

## 知 事

はい、ありがとうございます。道路についてまず近畿自動車道紀勢線につきましてですがけれども、先般も町長も議会の皆さんと一緒に太田国土交通大臣のところへ要望に行っていただいて大変心強く思っています。道路は繋がって初めて効果を発揮するものでありますから、この部分がミッシングリンクになっている、地域の活性化とかあるいは命という観点からこのミッシングリンクになっているのは大変不安な状況だというふうに思いますので、私たちも、5月に行きましたけれども、改めてしっかり国土交通大臣に要望する道路の中でも優先順位が高いものとして要望をしっかりとしていきたいというふうに思います。

そのためには、大事なことが 2 つありまして、ひとつは国土交通省は概算要求を上限いっぱい 16%増でやりましたけれども、この公共事業全体の総額の確保ということが大事だと思います。これが国土交通省がしっかり確保できるように私たち地方が一丸となってしっかり声を上げていく。その総額確保無くしては個別路線の事業化というのにはあり得ないわけですので、総額確保に向けてしっかりと皆で手を携えて取り組んでいきたいと思ひますし、私、全国高速道路建設協議会の副会長をやっていますので、総額確保に向けてまたお力をお借りできればと思ひます。

それから 2 つ目大事なのがストック効果です。今国土交通省はストック効果が高いところ、財務省への説明についても、やっぱり昔の様な B/C（費用対効果）という考え方よりも実際に地域への波及というストック効果というのがどういふ効果がもたらされるのか、景気対策としてフローで公共事業をやるんじゃなくて、地域に残っていくストック効果がいかに現れるかということが大事ですし、これまで道路整備をしたことでストック効果が現れているということをしかり説明していくということも大事だと思いますので、私たち県行政からでは見えないような、地域ならではのストック効果もたくさんあると思ひますので、ぜひそのストック効果の把握などについてもご協力をいただきたい。そして、それを国土交通省にしかり説明し、国土交通省から財務省の方にも説明をしていく。そういうふうにしていききたいというふうに思ひますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、県道御浜紀和線のところですが、2 点あつた内の柿原地区～中立地区につきましては、柿原地区内で接続する町道の改良計画に合わせて 500m 区間を今年度道路事業計画に「事業実施検討箇所」と位置付けまして事業に着手させていただきまして、今年度は測量と設計を進めさせていただく予定です。それから鶴殿熊野線までの事業化につきましては現在実施中の区間の進捗状況をみながら検討したいと思ひます。それから西原地区～金堀地区につきましては、先ほど町長からもおっしゃっていただきました通り、今年度は御浜町の地籍調査が完了する区間を含む約 1km について用地測量を実施する予定であります。その後は用地買収等をやつていただくということになると思ひますけれども、用地買収が早く済めば供用も早くなるということですので、ぜひ御浜町と連携して事業を進めていききたいと思ひますので、引き続きご支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 2 防災の強化について

御浜町長

2つ目「防災の強化について」でございますけれども、そのうちの1つ目、海岸浸食が進む七里御浜の無堤防区間の解消についてお願いをしたいと思います。阿田和地区と言いましても市木にかけてでございますけれども、この国道42号線に、特に海岸が狭くなってきているという実感がございまして、そういう場所では高波が国道まで迫ってきているという状況でございます。堤防があるところではそれで止まりますけれども、現在萩内海岸という所で工事をしていただいておりますけれども、熊野市側から市木側が堤防がまだできていないという状況でございます。現在工事をしていただいているところにつきましても、残り90m程度になっておりますけれども、私としては一日も早く堤防の設置をぜひお願いしたいということでひとつよろしくお願いしたいと思います。

それから2つ目志原川の樋門についてでございますけれども、この樋門につきましては、かなり老朽化というんですか、そういうところで一部の鉄筋が露出しているようなところもございます。そういう状況にありますので、早急に改修をお願いしたいと思います。この樋門の改修につきましては、河口閉塞の問題もございますので河口閉塞の解消と合わせて工事ができるようにしていただけないかという思いがございましてご配慮よろしく申し上げます。

## 知 事

はい、ありがとうございます。まず萩内海岸の所につきましては、残っている90mの部分については、保安林解除が必要なので、現在林野庁と協議をさせていただいています。協議終了後、速やかに整備に着手をして早期完了を目指したいというふうに思います。北側への延伸、熊野市側への延長につきましても事業化に向けて今年度から測量に着手していきたいというふうに思います。

それから志原川の樋門の所ですけれども、おっしゃっていただいたように、確かに老朽化して一部鉄筋が露出しているような状況を把握しておりますけれども、全県を見た時の一定の基準からみれば、緊急的な修繕が必要だということでは今のところないのかなと思っているんですけれども、毎年点検をしっかりとって修繕が必要な場合は行っていきたいと思っております。また、河口閉塞については、平成23年の紀伊半島大水害の時に中部地方整備局がいち早くポンプ車を出していただいて、排水作業を行っていただき助かった部分がありましたけれども、非常にハラハラする状況であったので、志原川の河口閉塞については皆さまご心配なのは大変良く理解をしているつもりであります。そういった中で、御浜町さんで砂州のブルドーザーによる開削を実施していただいていることはたいへん私たちも感謝をしているところでありますので、県としましても、昨年度災害対策用のポンプの配備、そしてポンプ排水による閉塞土砂の早期排出に向けた取り組みを実施しますので、また引き続き御浜町さんでの砂州の開削

もご協力お願いしたいと思いますが、私たちも今申し上げたような河口閉塞を解消していくための取り組み、引き続き取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解賜ればと思います。

### 3 若者定住対策について

#### 御浜町長

3つ目の「若者定住対策について」でございますけれども、この中でまず若者に住んでいただく場所をできるだけ確保したい、という思いがございまして、そのひとつの方法として農振農用地区域の見直しというのを目標にしております。その意味は、まず御浜町の場合、農地かなり過去に農振農用地区域を広く設定しているということがございます。これは、国営農地開発事業の場所も含めて、他の町よりもかなり広範囲で農地を設定したといういきさつがございまして。そういう中で、近年そういった農地の中に白地の所もありますので、そういったところは自宅を建てる、あるいは近年南海トラフの地震による津波を心配して高台に家を求めるといったことも増えてきております。そういうことから、私は農振農用地の必要性は十分に理解しておりますし、みかんの町ですからそういう場所はきちんと確保していきたい。ただ、郊外地等で、今後宅地に出来るようなところを極力見直しをして、若者のための住宅を確保していきたい、そういう宅地を確保していきたいという思いがございまして、農振農用地の見直しについてもご理解とご配慮をお願いしたいというふうに思います。

2つ目は、そういった土地を確保したうえで、住宅を建てていきたいということでございますけれども、この住宅につきましては、町が行う住宅整備、あるいは民間で行っていただく方法と2通りあると思っております。まずは町の方で農振用地にかかっていないところについてできることを町営住宅なり、あるいは土地を造成して、その土地を分譲という形で提供したいということを考えておりますので、この件につきましても財政的なご支援をひとつよろしくお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

#### 知事

はい、ありがとうございます。ご存知いただいております通り、今農地法のあり方ですとか農地の権限移譲、あるいは農地をどう目標設定して、市町においても目標設定に関与していただいて農地を確保していくか、真に必要な農地を確保していくかというマクロ管理の手法、こういうのを検討する地方6団体のリーダーをやらせていただいております。非常に農地のあり方、土地利用の在り方そういうものについて非常に渦中にいるという状況なんです。今町長が

おっしゃっていただいたのは、私十分理解できます。本当に日本が人口が増加している局面において食料を確保する必要があり農地に適していないところも含めて農地が拡大していった。今人口減少局面の中で先ほど正に町長がおっしゃっていただいたようにすでに荒廃地になってしまった、あるいは生産終了とか収益の上がないような可能性のある耕作放棄地や荒廃地などは、総合的な街づくりの中で農地じゃなくて新たな活用をする、それは住宅かもしれないしあるいは獣害の緩衝地かもしれないし、より農業が発展していくための使い方もあるだろうし、そういう形の事を地域で判断していきたいということは大変重要なことだと思いますので、この農業振興地域整理計画の変更等において、町などでどういうふうに土地利用を総合的にやっていくのか、これをぜひ検討していただき、また私たちも個別にご相談に乗っていききたいというふうに思っております。また、一方で真に必要な農地というのは確保しなければならないというふうに思っておりますので、その辺りのバランスを持ちながらということだと思います。一方で、私たちが今申し上げたように権限移譲というのをなるべく進めていった方がいいというふうに思っている中で、すでに地方自治法に基づく事務処理特例で都道府県知事が持っている権限を市町でやっていただけるものがあります。県においては29市町のうち、19市町ですでに事務処理特例を受けて都道府県知事の権限を市長や町長が行使していただくことが可能になっています。御浜町においてもぜひご検討いただきたいと思っておりますし、また今回の改正農地法の中で、来年の4月から施行されるもので、今度は4ha以上の土地も農政大臣から指定を受けた市町村が権限を行使できるというものもありますので、ぜひこれからも更なる農業の発展と総合的なまちづくりのための土地利用という観点から農地について町自らがしっかりと考えていくんだという姿勢の元、そういう権限を受けるということについても、ぜひ積極的な、前向きなご判断をいただければというふうに思います。

後、町営住宅の部分については正に東日本大震災等を踏まえての土地の使い方というのを考える中で町営住宅の移転建設等についてご議論をいただいているんだと思って、それは非常にまっとうなご意見をいただいているなというふうに思います。一方において、すべての都道府県において、市町村営住宅に都道府県が財政支援している例は全国中探してもないので、国で社会資本整備総合交付金がありますので、1/2国から補助が出ますので、その獲得に向けた技術指導とか働きかけとかそういうのをぜひ一緒にやらせていただきたいというふうに思いますので、財政支援はちょっと難しいということでご理解賜れるかと思っております。

#### 4 柑橘産業の振興について

## 御浜町長

ほとんど喋ってしまっているんですけども、年中みかんのとれるまち御浜町です。柑橘を中心として地域の経済がこのみかんを中心ということでございます。今年度、先ほど紹介させていただきましたけれども、選果場で新たな選果機がスタートするというので、非常に所得の向上に向けて大変期待をしているところでございます。知事には昨年、そういった中でトップセールスということでみかんのPRもしていただきました。今年も引き続きよろしくお願ひしたいと思ひますけれども、特に来年開催される伊勢志摩サミット、ここでの食材として御浜町のみかんもぜひPRしていきたいということを考えておりますので、三重県全体のPRを知事にはぜひともひとつよろしくお願ひしたいというふうに思ひます。それともう1点、このパーク七里御浜は当然道の駅ということになっております。観光案内、それからトイレを整備しているわけですがけれども、先ほど紹介させていただきました通り、施設を会社の方で非常にきれいにいただいている、またこの同じ階の3階にジュース工場があるわけですがけれども、その工場を拡大していきたいという思ひもござひます。そういう中で先般6月ですがけれども最終的に県の許可をいただひて、商業地域の指定から準工業地域という指定の変更をいただひまして誠にありがとうございます。それで一定の拡大のめどがついたわけですがござひますけれども、何せお金の要る話でござひますので、国の補助事業を取りたいという思ひもござひますのでそういう側面支援をお願ひしたいというふうにも思ひておりますし、この場所、建物の外は町有地になっておりますので、町有地の部分については町がしっかりと整理していきたいということで、早速今年度にEVを設置していきたいというふうに思ひておりますし、また来年以降、特産品の直売施設を外で設置できないかという思ひもござひまして検討しているところでござひますので、そういった面を含みまして最終的な支援を、今度は財政支援をお願ひしたいというふうに思ひますのでよろしくお願ひいたします。

## 知事

まずこの柑橘産業の関係でいくと生産とか担い手確保の支援と、後PRというふうにあると思ひますが担い手確保の部分については普及センターでの新規就労者の技術的サポートに加えて「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト」などの産地活動などの支援、新規就労希望者の移住定住に向けた御浜町へのサポート、こういうことをしっかりとやっていきたいというふうに思ひております。実際にいくつか成果も出ているようでもありますので、これからも取り組んでいきたいと思ひます。また平成24年度から南部地域活性化基金を活用して「三重

南紀元気なみかんの里創生プロジェクト」の協議会でその就労希望者向けの研修用住居の整備とか情報発信の取り組みを支援させていただいておりますので、引き続き取り組んでいきたいというふうに思います。

それから国の果樹経営支援対策事業なども活用しまして、正にみえの一番星の改植も進めさせていただいておりますので、今後もこの事業を活用した改植を進めていきたいというふうに考えています。こういう収益力の高い産品を増やし、それをやっていくことが、所得の安定にもつながると、経営の安定にもつながると思いますので、担い手の確保にもつながっていくと思いますから、しっかり取り組んでいきたいというふうに思います。それから、今日選果場が竣工されたわけでありましてけれども、非常に科学的なデータに基づいて技術指導ができる営農指導支援システムが導入されていますので、JAの営農指導員の皆さんと連携して普及センターの方で積極的に支援をさせていただきたいというふうに思っております。

それからPRの方ですけれども、首都圏でのPRや関西圏でのPRを引き続き地域の皆さんと一緒にやっていきたいと思っておりますし、輸出5年目を迎えるタイへの輸出につきましても、検疫対応が必要なミカンバエのトラップ調査の技術指導など引き続き支援させていただきたいと思っております。三重テラスでは、御浜町の多くの商品を取り扱っていますとともに、レストランの方でもマイヤーレモンとか御浜町産の100%みかんジュース等を提供させていただいております。三重テラスの2階のイベントスペースでも、6月から7月にかけて「南三重を楽しもう」ということで色々なPRを行わせていただきましたし、「三重県フェア」を5月にイオンレイクタウンでやったりした時にも、地元の農家の皆さんにも参加をいただきましたし、また、マレーシアでやった時にも商談会に参加いただいたりしていることですので、しっかり販路拡大につなげていきたいというふうに思います。

それからサミットにつきましても、先ほど町長からおっしゃっていただきました。現在市町を通じて食材の提案をお願いしているところでもありますので、ぜひ積極的にご提案をいただいて、我々としては1品でも多く県の食材を使えるようにというふうに思っています。これはもちろん首脳食べる所に使われるのがベストではあるものの、首脳だけではなくて配偶者、あるいはジュニアサミット、あるいはプレスの皆さん様々あると思いますので、そういう所も含めて検討していきたいと思っておりますのでぜひ積極的なご提案をお願いしたいと思います。それから先般中部地域の知事が集まったイベント、トークショーみたいなのがあった時に川勝静岡県知事が隣だったので、食の連携のお題を出された時に私の方から申し上げたのは、バッティングする商品だからといって競争だけしあうのではなくて、そもそもの柑橘の消費拡大に向けた共同PRみたいな

なものも一緒にやっていった方がいいのではないかと。柑橘の産地で一緒になってみかんの消費自体をもっと増やしていこうというPRも大事ですよ。という話も私から差し上げました。実際、水産の方ですけれども牡蠣は宮城と広島とうちで3県で連携して牡蠣の消費拡大PRを一緒に六本木等でやったりしていますので、そういうことも大事だなと思っています。

それから、このパーク七里御浜については、今重点道の駅候補に選定されて、これだけのレストランとかあるいは辻さんの工場も入っていますので、他の地域にない道の駅になってくるんじゃないかというふうに思っておりますので、先ほど町長からおっしゃっていただいたようなEVの充電器の設置なども重点道の駅に格上げしていくのに非常にいい材料だと思いますので、連携して選定されるように取り組んでいきたいというふうに思います。

## 5 熊野古道の復旧について

### 御浜町長

5つ目の「熊野古道の復旧について」でございますけれども、これにつきましては地滑り対策ということでございます。横垣峠という峠がございまして、これは古道のひとつでございますけれども、ここの上から地滑りが起こって平成19年の時でございますけれども、それ以降復旧工事を行っていただいております。ただ、平成25年度まで一応工事が進んで、平成26年度、平成27年度は予算もつかないというところから工事が進んでいないわけでございます。ぜひ個々の工事を進めていただいて、現在の横垣峠は通行止めをしょっちゅうしておりますけれどもこういった通行止めを一日も早く解消したいと思っておりますので、どうかひとつよろしくお願ひしたいと思います。

### 知事

はい、ありがとうございます。横垣峠の部分については工事区間前後の林道を利用していただいて一応熊野古道のコースとして通り抜けしていただけるようになっているものの、町長おっしゃっていただいているとおり、工事が続いて通行止めになっているということについては地元の皆さんもご心配だろうし、本来の魅力という意味ではまだ十分でないというふうに思っておりますので、おっしゃっていただいた通り平成25年度から工事に着手して平成26年度は平成25年度事業を繰り越してやってきたわけですけれども、なので予算計上は平成26年度は無く、平成27年度はこの国からの補助金の治山工事の予算の配分減少で、全県の事業個所の検討を行った中で、大変申し訳ないんですけれども予算計上を見送らせていただいたというようなことであります。我々、今み

え森と緑の県民税をいただいたり、あるいは国の治山事業のやつを頂いたりしながらも、この人命にかかわるようなところなどを最優先にしながら限られた予算の中で色々な事業個所を選定しているところでもあります。いずれにしてもしっかり、引き続き必要な予算の確保に努めて、治山事業推進に取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、ご理解いただければというふうに思うところでもあります。

## 6 紀南病院における医師確保について

### 御浜町長

6項目めの紀南病院における医師確保についてでございますけれども、医師確保につきましては平成17年度に三重大医学部からの内科医の全面撤退ということを受けました。紀南病院内科では自治医大の先生方を中心に支えていただいているのが現状でございます、県の方に対しましては大変感謝を申し上げているところでございます。今年度は、紀南病院に対し自治医科大学出身の内科医が6名、そしてその他の診療科を含めて8名の医師を派遣していただいているという現状でございます。しかし、当地域は高齢化が進行する中におきまして、診療科によっては、例えば泌尿器科、あるいは神経内科、皮膚科といったところについては医師が非常勤ということで、そんな状況になっているところでございます、三重大等の支援により予約制で診療を行っていただいております。しかしながらニーズに答えきれていないという現状でありまして、交通の便の悪い中、新宮医療センターあるいは尾鷲総合病院の方へ通院している方もみえる状況でございます。また、今年の9月に三重大の方から派遣していただいております産科医1名がほかの病院へ転院となりました。そういうことからやむなく9月からは分娩の受付を休止しているとそういった緊急事態になっている状況にあります。

この地域における医師確保対策としましては、三重県と三重大で設置していただいております三重県の地域医療支援センター、そういったものの活用など、ぜひとも紀南病院に専門医の常勤配置についてご検討、ご協力をいただきたいというふうに思っておりますし、全国で2025年を想定とした医療・介護提供体制の適正化が都道府県において検討されているところでございますけれども、紀南病院はこの地域の唯一の2次医療病院施設でございますので、この地域に暮らす住民にとりましては、様々な診療科が受診できて、命にかかわる救急医療にも対応できる最も重要な医療機関だと認識をしているところでございます。東紀州地域の医療の堅持や少子高齢化が進展する中で、そういった中で医療と福祉・保健の連携のためにも、この地域の中核病院としての紀南病院

の医師の確保につきまして、格別のご理解をお願いしたいと、切に願いますところでございます。よろしくおねがいます。

## 知 事

はい、ありがとうございます。医師確保については、様々な取り組みを私 1 期目も取り組んでまいりましたが、とりわけ地域偏在、この東紀州地域それから伊賀地域のそれぞれの保健医療圏における対人口比率での医師の少ない状況というのをいかに改善をしていくかということが大変大きな課題であるというふうに思っています。その中で、今医師を目指して三重県内で医師になってくれる人たちの医師修学資金貸与制度というのをやっているわけですが、これがちょうど平成 26 年度末で累計 481 名の方に貸与することになりました。これ実は大体トータルで 5 億円ぐらい出しているんですけども 5 億円ぐらい出している額というのは全国で 4 番目か 5 番目ぐらいの状況でありまして、段階的に医師がこれから増加していくと見込んでいるところであります。一方で、段階的に増えてきた医師が県内で医師として働いていくにしても、地域偏在の地域に行ってもらわなければ意味がありませんので、そういう形で今先ほどご紹介いただいた地域医療支援センターのプログラムにおいては、ほとんどの後期研修者がこの紀南病院に来ていただくという形にもしてありますので、ぜひその来た時に「この病院で働いてみたいな」と医師の後期研修者の皆さん達が思うような病院の魅力づくりというのにもご尽力をいただきたいというふうに思いますし、県ではこの秋ぐらいから、例えば「女性が働きやすい医療機関認証制度」というものを、これあまり同じ取り組みをしているところは無いんですけども、始めようとしています。医師の中でも女性の方、そして先ほど町長からおっしゃっていただいた小児科とか産婦人科の中には女性医師の人が非常に多くなってきています。ですので、例えば紀南病院で「女性が働きやすい医療機関認証制度」に申し込んで認証を受けるような体制整備等もしていただくと「ここは女性が働きやすい場所なんだな」ということで、その女性医師の方々等からも、もちろん看護師もそうですしその他医療従事者も皆そうですけれども、魅力が出てくるんじゃないかなというふうに思います。そういう制度もご活用いただくと非常にいいのかなというふうに思っています。後は短期のバディホスピタル等、色々なことも取り組んでいきたいと思っておりますので、紀南病院の独自の医師確保に向けた取り組みと、今申し上げたような県でもやっている施策等の活用等でこの紀南病院の医師確保が進んでいくように、私たちが配慮していきたいというふうに思います。

それからおっしゃっていただいたように、今地域医療ビジョンというのを、2025 年までの医療の在り方を作るための検討会をやらせていただいておりますが、

地域毎によく意見を聞いてということですので、そういうような構想もしっかり地域でそれぞれ検討会を回らせていただいておりますので、また様々なご意見を賜ればというふうに思っています。

それから、後は紀南病院にだけ集中するのではなくて、在宅医療とか在宅介護とか、あるいは地域包括支援システムとかそういう様々な取り組みも、今申し上げたような地域包括ケアシステムとかあるいは在宅医療とかは基本市町で郡市医師会と共にやっていただくケースが多いと思いますので、そういう取り組みもしっかりやっていただきながら紀南病院があるという形がいいと思いますので、また私たちもそういう分野において色々な取り組みをしておりますから、そういう部分も色々なご相談に乗りながら、いずれにしてもこの御浜町にお住みの町民の皆さんが安心して医療を受けられる体制に向けて一緒になって努力をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

## 7 保健所の機能強化について

### 御浜町長

はい、7項目めの「保健所の機能強化について」でございますけれども、熊野保健所の健康増進課には課長1名、また保健師2名が配属されております。熊野での職員の在職期間が非常に短いというところで、平均2年～3年、短い人では1年～2年ということで異動をしてしまうという状況もあるようでございます。東紀州には市町当たりの人口規模が大変小さいということで、南牟婁郡・熊野と連携してこういった医療の保健所のそういった取り組みをしております。紀南地域の母子医療推進協議会、あるいは健康長寿の推進協議会等々3市町が連携して取り組んでいる、ということが多くなってきております。それなら、保健所が市町の話し合いの場を設定していただく等、リーダーシップを取っていただきたいというふうに思っております。そのためにも熊野でのまず在職年数、この期間を長期化していただく、あるいはリーダーシップが取れるようなそういったベテランの人材の派遣をお願いしたいというふうに思う所でございます。最近では県庁から直に市町へのやり取り、直接的なやり取りも多くなってきておりますので、そういった内容についても検討・検証を十分情報共有していただいて市町への指導体制をしっかりと整えていただきたいという思いがございますので、その点についてひとつよろしくお願ひしたいなというふうに思います。

### 知事

はい、ありがとうございます。おっしゃっていただいているとおり、地域の保健所と本庁でちゃんと情報共有ができていないということは、あつてはなら

ないことでもありますので、ちょっと私自身は個別具体的にどういう状況なのかわからないのですけれども、町長おっしゃっていただいたとおり、そういう面があるとするならば、それはしっかり改善をしていきたいというふうに思います。そして、市町の連携のリーダーシップを、ということでもありますので、保健所も市町と連携していかなければ実際の円滑な業務執行というのはできませんので、そういう形で皆さんと一緒に歩んでいける形を市町としっかり連携した体制を保健所が取っていけるようにやっていきたいというふうに思います。

そして人事の事についてですけれども、課長等はなるべく高い専門性の、そして経験豊富な人間を配置するように努めているところでありますので、これからはぜひそうしていきたいと思います。大事なことは市町の状況をその人で担保するというよりは、人が変わってもちゃんと引き継がれたり、ちゃんと人間関係を構築していけるような仕組みを作ることが大事なのではないかというふうに思いますので、例えば「西村局長はいい奴だから西村局長にずっとやっておいてくれ」というのは、それはそれでいいんですけどやはり色々な組織としての人事のあり方は西村が変わっても吉仲から西村が変わった時の様にちゃんと引き継がれていって信頼関係が作れる体制を作っていくのが大事だと思いますので、多分、保健所の中でそういう引継ぎとかそういうのがうまくなされてなかったりして、町の皆さんとの信頼関係等が不十分、もう一度一から出戻りみたいなことになって町の皆さんに不信感や負担感を与えている部分があるのかなというふうに思いますので、一律に人事直結するのはなかなか難しいですけれども、大事なことは町との連携をしっかりとれるようにするその信頼関係をちゃんと構築するというのを人が変わっても仕組みとしてちゃんとできるように担保するということだと思いますのでちゃんと保健所の方にもそれを留意していくように、あるいは地域機関全てそうだと思いますけれども、そういう形にしていきたいというふうに思っておりますので、いずれにしても課長などの部分については今申し上げたような経験豊富な保健師をなるべく配置するように努力をしていきたいというふうに思っております。いずれにしても命にかかわることでもありますから、町長がおっしゃっていただいたように町民の皆さんや町行政の皆さんが不安にならないような安心していただけるような形の組織体制に本庁・保健所なるようにしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

## 8 追加項目

### 御浜町長

たくさん聞きたいことはあるんですけども、答えにくいようなこともある

かもしれませんけれども、まず 1 点目の高速道路の事業化、三重県での最後の区間だと思っております。私は平成 28 年度にぜひとも採択をお願いしたいというふうに思っているわけですが、これは同盟会、熊野尾鷲それから熊野新宮、それから同盟会で要望を、今後 11 月も予定をうかがっておりますけれども、平成 28 年度の見通しはどうでしょう？

## 知 事

そうですね、私たちもぜひとも平成 28 年度新規事業化を国土交通省にしたいという思いでトライをしていきたいというふうに思いますので、いずれにしても先ほど申し上げたようなこの残りの区間をやることでどういうストック効果が現れる見込みなのか、とか、そういう説明における知恵が必要だと思われるんです。単に「新規事業化してください」というだけではなくて、そこは一緒に知恵を出し合ってやっていきたいというふうに思っています。やはり地方創生というならば、競争条件を一緒にしてもらわなければいけないので、道路のミッシングリンクがつながることは必須だと思っておりますので、ぜひ平成 28 年度新規事業化に向けて、後は先ほど申し上げた公共事業の総額確保というのがすごく大事だと思いますので、それもしっかり声をあげていくということが大事ではないかなというふうに思います。いずれにしても平成 28 年度新規事業化に向けて共に頑張っていきたいと思っております。

## 御浜町長

ミッシングリンクの解消のストック効果と言いましたけれど、鹿児島市はそれぞれの特色を生かしていくということでそういった効果も色々と国の方へも紹介しております。御浜町の場合はみかんということで高速道路でのトラック輸送ですが、そういった中で荷傷みが少なくなったとか時間を短縮して新鮮なみかんを早く出せるとか、あるいは荷傷みが少ない状況が生まれたうえで、効果を出していきたいと思っておりますし、紀宝町は企業の誘致もされましたし、熊野市もスポーツ交流ということで交流事業もかなり増えておりますし、あるいは尾鷲市では魚のトラック輸送、それから紀北町ではキャンプ場の集客と、色々それぞれの市町が特色のあるこういった効果を国が挙げていっておりますので、そういう中で平成 28 年度の、皆で市町、あるいは県、国土交通省の方と後は財務省だと思っておりますので、この辺力を合わせてひとつお願いしたいということを思っております。それともう 1 点道路関係で先ほど申し上げました県道の御浜紀和線につきましても極端に言えば 20 年来の整備の事業だということで一旦中止して行政の関係だと思っておりますけど、中断してまた始めていただいた経緯がございます。そういう中で私はここをぜひとも早く、御浜町

ではこの県道の整備が一番の課題だというふうに思っておりますので、ぜひとも引き続きよろしくお願ひしたいというふうに思います。

繰り返しになりますけれども、海岸の堤防につきましては先ほど萩内海岸の事業化、熊野側への事業化をいただきましてありがとうございます。後、山地地区の方でも、実は無堤防になっていまして今回の要望に入れていませんけれども市木地区が完了すれば、やはり阿田和地区、山地地区の方等、そういったところへの堤防の設置もぜひお願ひしたいと思っておりますけれども、県として無堤防解消の継続的に事業をやっていただくというふうな見込みはどうでしょう？

## 知 事

そうですね、個別にここを継続するとかいうよりは、全般的に東日本大震災の後、海岸堤防の緊急補修を 200 ヶ所やって、ここからさらに防災・減災という観点から優先順位をつけて海岸堤防の整備というのを進めていかななくてはならないというふうに思っておりますので、もちろん御浜町の事情も十分よく理解していますし、一方で全県見渡した中でさらに整備の必要なところもあろうかと思っておりますから、その辺の財源なども含めたバランスを見ながら、いずれにしても優先順位を決めながら計画的に堤防の整備を進めていきたいというふうに思います。

## 御浜町長

後、志原川の樋門につきまして、知事は緊急性のこともおっしゃいましたけれども、県の立場と地元の立場、客観的に言うと緊急性の問題はそれぞれ色々分かれると言いますか、私としては主観は入りますけれども緊急性は高いというふうに思っております、根拠についてはこれからまた色々県の方と情報共有させていただきながら出来るだけ早く進めていただけるような工夫も方法も考えてきたいと思っておりますし、ぜひともこの志原川の、これは本当に御浜町だけではなくて産田川の方の本流にもなっておりますので熊野市側にも効果が現れるというふうに思っております、ぜひともこの河口閉塞、あるいは樋門の改修、実行に移していただきたいと。これは根気よく要望を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。見通しはどうでしょうか。

## 知 事

一応全県的な基準の中での緊急補修の必要性としては、現時点においては補修の必要性という部分がまだということだったので、毎年点検してまいりますので、毎年点検をしながら各全県の中での財源の優先順位を見ながらやっていく

ということになるかと思えます。もちろんこういう観点でどうかというのを  
どンドンご提案いただいたらいいと思えますし、今申し上げた通り私たちとし  
てはしっかり毎年点検をして、その状況に異論が無いようにしていきたいとい  
うふうに思っています。

### (3) 閉会あいさつ

#### 知 事

大畑町長におかれましては本日はどうもありがとうございました。たぶん今  
私 5 年間 1 対 1 対談やってきたわけでありましてけれども、最多の項目数であり  
ましたので、終わるのかどうか心配だったのでなるべくば一っと進めていきま  
したけれども、進行にご協力いただき、まだまだ言い足りないという部分はあ  
るかと思えますが、これからもしっかりとこの場のみならず連携を深めてけれ  
ばというふうに思っておりますし、ぜひまた御浜町の発展、特に今日選果場の  
オープン日、竣工式の日だった、あるいはこのピネの新しい姿、まだ道半ばで  
はありますけれども辻さんや皆さんの努力で、御浜町の皆さんの努力で進ん  
できたということもうれしく思ったところでありますし、ぜひ皆さんと一緒に取  
り組んでいきたいと思えます。

繰り返しになりますけれども台風 18 号、接近しておりますので警戒のほどよ  
ろしくお願ひしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。